

1 階病棟 花火大会

指導主任 池 島 守

100個ほど並べられた打ち上げ花火や吹き出し花火。

およそ40台の車イスが並び、花火大会の準備完了！

開会宣言の後、夏の夜空に一齐に花火が打ち上げられていきます。

白い光と煙を発して次々と吹き出す花火に、「オー、スゴ〜イ」の歓声とどよめき。

空高く打ち上げられる15連発の打ち上げ花火に、「1. 2. 3 . . .」のかけ声。

職員といっしょに手で持つ手持ち花火に、「キレ〜」の感動の声。

地面の数か所にとるガラスの中のキャンドルの灯りを静かに見つめる幼い子ども。

和倉の花火大会には到底及びませんが、間近に見る光、音、匂い、そして、病院のたくさんのボランティア職員の温かい気持ちは、一人一人に届き楽しい思い出になったことでしょう。

重い障害を持った患者さんは、ことばの意味を理解して回りの状況を理解するより、話し手の口調や声のトーン、表情、まなざし、関わり方をトータルで感じ取り「自分が回りから大切な存在として扱われているか否か」を感じ取っていると思われる。たとえ話さなくてもトータルで周囲の状況を理解している患者さんに、このような楽しい行事や心地よい環境を提供していくことが一人一人の笑顔を引き出していくことにつながると考えています。

楽しかった花火大会も終わり、ベッドに向かう患者さん一人一人の瞳の奥にはきれいな花火が映っているでしょうか。

楽しい思い出をそっと胸にしまって、心地よい眠りについたでしょうか。

